農村景観の存続重要

ブータンと日本を比較

亀岡で講演会

ブータンのGNH（国民総幸福量）から亀岡の農村景観を考える市民向けの講演会が28日、亀岡市古世町の市文化資料館で開かれた。京都大東南アジア地域研究研究所の安藤和雄准教授がブータンと日本を比較しながら、都市部の人たちを引きつける農村景観の重要性について語った。

安藤准教授は、ブータンでも日本の中山間地と同じく空き家や耕作放棄地が増えている現状を紹介し、「都市部への人口流出が急激に進んでいる。放置されたら自然は残るが、人々の暮らしと調和した農村の風景は守れなくなる」と強調した。

さらに、幕末や明治初期に訪日した外国人たちが地方の農村風景を絶賛した例に触れ、「日本の文明は歴史的にも里の発展形にあった」と分析した。

現在でも自然豊かな南丹市美山町などに多くの外国人観光客が訪れているといい、「農村の方が世界的には貴重だ。里の景観をいかに存続させるかが重要になる」と語り、市民ら約40人が熱心に耳を傾けていた。

（北川裕猛）

ブータンと亀岡の農村景観について語る安藤准教授（亀岡市古世町・市文化資料館）

2018年1月29日　京都新聞掲載

京都新聞社
The Kyoto Shimbun Co.,Ltd.
©京都新聞社　無断複製・転載を禁じます